

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 11日 ～ 2025年 3月18 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2025年 2月 11日 ～ 2025年 3月18 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月19 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	複数名の言語聴覚士を配置しており、ことばの専門性を活かした療育が可能である。	アセスメントを事業所全体で共有し、対応方法や環境設定を統一できるように工夫している。	多職種での連携の強化を図る。
2	専門職との個別訓練の時間を提供できている。	利用者の個性や特性を活かして、それぞれに合った訓練を提案している。	個別訓練の時間配分や訓練場所や環境の調整。
3	保育所等訪問支援と併行して支援を組み合わせることで療育で獲得したスキルを所属先で発揮できるための情報共有が出来る。	事業所で獲得したスキルを違う環境で活かすために状況やや環境に合わせた対応の提案や工夫を行うようにしている。	固定の対応方法ではなく、対応パターンを充実させていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	各保護者との面談等や振り返りでの関わりはあるが、保護者同士が関わる機会の場の提供が出来ていない。	療育活動以外の対応できる人員が不足している。	参観日等を設けて、保護者が療育に参加、見学を出来る体制を整える。
2	物理的なバリアフリーが難しい。	施設の小さな段差や入口や通路の狭さがあり。	修正可能な範囲で物理的な障壁を改善していく。
3	朝の送り、夕方の迎えの対応が難しい。	人員、車両の不足。また送迎時の短時間での保護者とのコミュニケーションが必要と考えている。	人員、車両の確保。必要に応じて送迎を行う体制を作る。